

みんなで育てる 多文化共生

～誰もがいきいきと心豊かに暮らせるかながわを目指して～



神奈川県にはたくさんの外国人が暮らしています。
外国人のことを知り、共に助け合い、違いを持つ誰もが、
いきいきと心豊かに暮らせる地域社会を形成しませんか？

※多文化共生とは：総務省では「多文化共生の推進に関する研究会」において、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義しています。

2015年3月発行

多文化共生について見て・知って・考えて・体験しよう

多文化共生について考える入口は身の回りにたくさんあります。とびらを開けてみませんか？

◎映画を見て考える

多様な人々が出会うとき「物語」が生まれます。外国人学校の子どもたちや在日韓国・朝鮮人のおばあちゃんたちを見つめた映画、歴史を記録した映画、外国人との出会いと登場人物の成長を物語の軸にした映画などいろいろな作品があります。映画を見た後、その背景について本や資料で調べるとさらに多くのことが理解できるでしょう。



◎本や資料を読んで考える

外国人は様々な理由や経緯により日本で暮らしています。本や資料を読むと理解が深まります。親しみやすいところでは国際結婚や外国につながる子どもたちを描いたマンガなどもあります。

おすすめスポット

神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぶらざ)
横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 TEL045-896-2121 <http://www.earthplaza.jp>

2階の「映像ライブラリー」には、地球規模の課題、国際理解、国際協力、多文化共生、人権、平和などをテーマにした約37,000の図書と約2,300の映像資料があり、誰でも閲覧・視聴できます。県内に在住・在学・在勤の人は図書を借りることができます。ホームページで資料を検索することもできます。また、5階の「映像ホール」ではあーすぶらざのテーマにあった映画の上映会があります。その他にも、外国人が「教育」にかかわる相談ができる窓口、「生活」や「法律」など一般的な相談ができる窓口があります。



◎レストランにお出かけ

かながわにはいろいろな国・地域の料理を味わうことができるレストランがたくさんあります。お店の人やお客さんとの交流も楽しみのひとつ。気に入った料理の作り方を聞いてみてはいかがでしょうか。



おすすめスポット

かながわ国際交流財団との提携レストラン
<http://www.kifjp.org/membership>

ホームページには、神奈川県内のいくつかのレストランのリストがあります。それらのレストランでは、かながわ国際交流財団の会員になると優待サービスが受けられます。



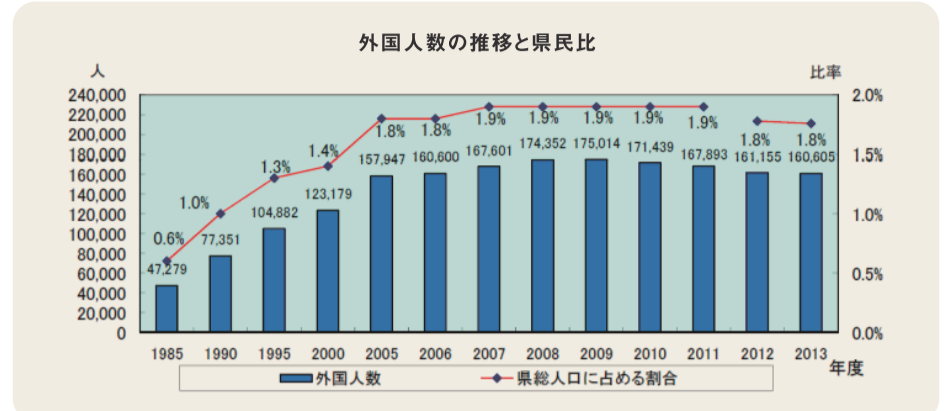
神奈川県や市町村の概要を知る

神奈川県や皆さんが暮らしている市町村には、どのくらいの外国人が暮らしているのでしょうか。

◎統計情報を見てみましょう

神奈川県に暮らす外国人の数は、近年、リーマンショック(2008年)や東日本大震災(2011年)の影響によりやや減りましたが、長期的に見ると増加しています。来日の経緯や職業、言語は多様です。家族を持ち、定住化する傾向にあります。神奈川県ホームページから、統計情報を見ることができます。

神奈川県国際課ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4695>



※制度変更に伴い2011年以前のデータと2012年以後のデータを単純に比較することはできません。詳しくは神奈川県ホームページを参照してください。

国・地域	数	国・地域	数	国・地域	数
1 中国	52,518	6 ベルギー	6,404	11 ネパール	1,812
2 韓国・朝鮮	29,854	7 米国	4,659	12 インドネシア	1,625
3 フィリピン	17,911	8 タイ	3,600	13 カンボジア	1,551
4 ブラジル	8,304	9 インド	3,326	その他147か国	18,768
5 ベトナム	7,124	10 台湾	3,149	合計	160,605

(神奈川県国際課調べ 2014年1月1日現在)

- 中国:19世紀から世代を重ねる華僑の人々のほか、留学生、国際結婚、子どもの呼び寄せなど来日経緯は多様。
- 韓国・朝鮮:戦前から日本で生活している在日韓国・朝鮮人の人々や、留学、国際結婚、仕事等で来日する人々がいる。
- フィリピン:女性が圧倒的に多いのが特徴。日本人と結婚して日本で子育てをする人も多い。
- 中南米(ブラジル、ペルー、ボリビア、アルゼンチン、ドミニカ共和国など):1990年以降、日系人を中心に増えた。その後の不況で仕事を失い帰国する人もいた。日本生まれの子どもも多い。
- インドシナ三国(ベトナム、カンボジア、ラオス):インドシナ難民を受け入れた大和定住促進センター(1980年開所/1998年閉所)があったことなどから、他県と比べて神奈川県にはインドシナ三国の人々が多い。近年、経済交流の進展にともないベトナム人の企業関係者や留学生などが増えている。

◎国際交流イベントにお出かけ

神奈川県内のいろいろな場所で、多文化共生や国際交流がテーマのイベントが開催されるようになりました。音楽・踊り・交流企画・展示・屋台などを見て、聴いて、味わいながら、外国人と交流したり多文化共生について考えたりできるプログラムがたくさんあります。



◎外国人コミュニティの催しにお出かけ

外国人コミュニティの主催で地域に開かれた催しが開催されるようになってきました。知り合った外国人に尋ねたり、レストランでお店の人に尋ねたり、ホームページで調べたり、国際交流のための施設に問い合わせたり、いろいろな方法で情報を見つけ、出かけてみてはいかがでしょうか。



◎講座や学習会にお出かけ

外国人の暮らしについて詳しい人から話を聞いたり、外国人自身から母国や日本での体験談を聞いたりすると理解が深まります。外国人の視点からの日本についての新しい発見も得られるでしょう。

おすすめホームページ

かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと
<http://www.kifjp.org/kcns>
<http://www.kifjp.org/kcns/calendar> (カレンダー)

(公財)かながわ国際交流財団が運営している、外国人の暮らしに役立つ情報、支援者に役立つ情報、多文化共生に関する情報、交流に役立つ情報などをまとめたホームページです。本・資料・報告書・イベント・学習会・国際交流関連施設といった幅広い情報をここから手に入れることができます。いろいろな催しは、カレンダーで見ることができ、予定を考えると便利です。



かながわ・こみゅにてい・いんふおめーしょん
<http://www.kifjp.org/kcinfo>

神奈川県内のいくつかの外国人コミュニティを紹介しているホームページです。

誰もがいきいきと心豊かに暮らすために

外国人の中には、様々な場面でサポートが必要な人もいます。どのような課題があるのか知ることを通じて、必要な仕組みや支援について考え、困っている人がいたら情報をぜひ知らせてください。

◎日本語を学ぶ

仕事、子育て、手続きなどいろいろな場面で日本語が必要です。ボランティアなどが中心となり、地域で日本語教室が開催されています。日本語を教えながら日本の文化や習慣について伝えるなど、交流・情報交換・助け合いの場にもなっています。

おすすめホームページ

かながわ日本語学習・学習補習教室・母語教室マップ
<http://www.kifjp.org/classroom>

地域で開催されている日本語教室・学習補習教室・母語教室を探ることができます。教室の活動概要と会場の地図が掲載されています。



◎医療機関に行く

外国人の中には、日本語では症状を思うように説明できない、医師の日本語での説明がわからないと感じる人がいます。また、中には、様々な事情で健康保険に加入しておらず、受診を控えるため、深刻な病状になってしまう人もいます。外国人にとって母語ではない日本語で、子どもの予防接種の効果や副作用を理解し、接種の計画を考えることも難しいことです。

日本語を母語としない外国人が医療機関を受診するときのサポートをするため、神奈川県・県内自治体とNPO法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)が協働して医療通訳を養成、研修、派遣しています。

おすすめホームページ

かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと(医療に関するページ)
<http://www.kifjp.org/kcns/me1> <http://www.kifjp.org/kcns/me2>



◎災害などから命を守る

地震がほとんどない地域の出身の外国人は、防災訓練などに参加した経験がなく、防災や減災に関する知識や情報を十分に持っていません。外国人を対象とした防災訓練もありますが、まだ十分ではありません。大災害が起きたとき助け合えるよう普段から相互理解を深めておくことが大切です。また、東日本大震災のときなどは、多くの外国人が被災地でボランティアとして力を発揮しました。

防災や減災に関する情報に加え、交通ルールや防犯といった普段の生活を安心・安全に過ごすための情報も必要です。



おすすめホームページ

かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと(防災・安心・安全に関するページ)
<http://www.kifjp.org/kcns/disa>

◎老後の生活を考える

外国人も高齢化が進んでいます。老後を安心して過ごすためには様々な知恵や助け合い、そして制度に関する情報が必要なため、老後の生活に不安を抱いている外国人はとても多いです。

外国人の中には、介護施設等で働き高齢化社会を支えている人もいます。



◎相談をする

外国人が抱える課題はそれぞれが相互に複雑にからみあうことがあります。県内には外国語で相談できる窓口があります。言葉によって曜日や時間が違います。

おすすめホームページ

かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと(相談窓口に関するページ)
<http://www.kifjp.org/kcns/con>

◎情報を伝える

日本語を母語としない外国人にとって、日本語の情報を入手して生活に役立てることは難しいのが現状です。外国語に翻訳された資料があると助かります。資料を翻訳できないときは、わかりやすい日本語を使えば情報が伝わることも多いです。ただ資料を渡すだけでなく、説明をしながら渡すと気持ちも一緒に伝わります。

おすすめホームページ

かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと(やさしい日本語に関するページ)
<http://www.kifjp.org/kcns/yasashii>

パンフレット「やさしい日本語でコミュニケーション～外国人にわかりやすく情報を伝えるには～」など、やさしい日本語に関する情報がまとまっています。



おすすめメールマガジン

多言語情報メール配信サービス「INFO KANAGAWA」(インフォカナガワ)
<http://www.kifjp.org/infokanagawa>

暮らしに役立つ情報を外国語に翻訳して配信するサービスです。月に4回程、配信され、読者登録は誰でも無料でできます。中国語、ポルトガル語、スペイン語、英語、日本語など登録するときを選んで言葉で情報が届きます。



◎子育てをする・子どもの教育を考える

外国人の保護者が日本の子育てや教育制度について理解を深めるための外国語の情報はまだ少なく、子どもの将来のために適切な進路を考えるのはとても難しいことです。また保護者は、子どもが自分のルーツの文化や母語を学び、母国の家族と話したり、日本と母国の架け橋になったりして欲しいという願いも持っていますが、母語を学べる機会は限られています。

子どもたちの中には、学校でいじめにあい不登校になる子もいます。また、日常のコミュニケーションでは流暢に日本語を話していても、学習で使われる日本語が壁となり、学力が伸びない子どももいます。子どもたちに関わる多くの人が課題を理解し適切な支援をすることが必要です。

おすすめガイドブック

外国につながる子どもたちをどのようにサポートできるか参考になる情報をまとめたガイドブックです。全作品がホームページから無料でダウンロードできます。

<http://www.kifjp.org/shuppan/guidebook>

発行:(公財)かながわ国際交流財団



◎すまいを探す

外国人がすまい探しに苦労したという話を聞きますが、全体としては民間賃貸住宅に空き家が増える傾向があり、外国人も入居しやすい状況になってきました。しかし、外国人が理解できるように敷金や現状回復等について説明がされていないことが原因で、退去時に問題が起きることがあります。入居時に丁寧に説明してもらうことが大切です。外国人に積極的に賃貸住宅の仲介を行う不動産店「外国人すまいサポート店」や、すまいに関する様々な相談を受け付けるNPO法人かながわ外国人すまいサポートセンターという団体もあります。

おすすめホームページ

外国人すまいサポート店 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f3530>

NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター <http://sumasen.com>

かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと(すまいに関するページ) <http://www.kifjp.org/kcns/li>



◎仕事を探す

経験や語学力を活かし世界を舞台に活躍している人がいる一方で、ほとんど日本語を使わずに外国人同士のつながりの中で働いている人もいます。暮らしの中で日本語を学びながら日本社会とのつながりを深めていないと、再就職が大変困難になってしまいます。また就職した後、雇用契約の内容や職場の規則などを理解するのが難しい場合もあります。日本での働き方、法律の知識、職場体験、面接の受け方、履歴書の書き方、求人票の見方などを学ぶ講座も開催されています。

ボランティアをはじめよう!

ボランティアとして多文化共生の社会づくりに取り組んでみませんか?
いくつかボランティア活動の例を紹介します。

◎国際交流イベントに参加する

多くの国際交流イベントではボランティア・スタッフを募集しています。ぜひイベントの事務局にお問い合わせてください。「かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと」にも一部情報が掲載されます。

◎日本語学習や子どもの学習を支える

日本語学習、子どもの学習支援のグループの中には、ボランティアの受け入れをしているところがあります。先に紹介した「かながわ日本語学習・学習補習教室・母語教室マップ」で調べることができます。「神奈川県立国際言語文化アカデミア」では、日本語指導ボランティア入門講座を開催しています。
神奈川県立国際言語文化アカデミア <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7807>

◎語学力を活かす

外国語ができる人は通訳・翻訳ボランティアに参加して活躍することができます。外国につながる子どもたちの母語学習で活躍している人もいます。

◎寄付をする・会員になる

外国人を支える活動をしているグループに寄付をしたり、会員になって支えたりすることも立派な活動です。寄付をするときには通信欄にメッセージをそえると活動の励みになるでしょう。

掲載情報についての問合せ



公益財団法人 **かながわ国際交流財団**
Kanagawa International Foundation

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-8 第一安田ビル4階
TEL:045-620-0011 FAX:045-620-0025 Email:tabunka@kifjp.org

かながわ国際交流財団(KIF)は、神奈川県と県内市町村、企業等により設立された団体(※)です。すべての人が、国境や人種、文化の違いをこえて、いきいきと心豊かに暮らせる社会を形成し、国際性豊かな人材を育て、地域からの将来像を提案するため、4つの事業の柱<Ⅰ 多文化共生の地域社会かながわつくり><Ⅱ 県民・NGO等との連携・協働による国際活動の促進><Ⅲ 国際性豊かな人材の育成><Ⅳ 学術・文化交流の促進>のもとで事業を展開しています。多文化共生・協働推進センター(本部・横浜市神奈川区)と湘南国際村学術研究センター(葉山町)を活動拠点として、県、市町村、市町村の国際交流協会、NGO/NPO、研究・研修機関など神奈川県内のさまざまな機関・担い手と連携・協働して事業を展開しています。

※当財団は、1977年設立の(財)神奈川県国際交流協会(KIA)と1992年設立の(財)かながわ学術研究交流財団(K-FACE)が統合し、2007年4月に(財)かながわ国際交流財団(KIF)として新たなスタートを切り、2012年には公益財団法人に認定されました。